

## 過去に広報に掲載した 主な防災関連情報

【2009年(平成20年)】

○9月号「保存版 防災マップ」

※市ホームページにあります。



わが家の防災メモ

非常に役に立つもの

地震の揺れと被害想定  
避難するときは

屋内・屋外で地震に  
遭ったら

【2011年(平成23年)】

○3月18日発行(A4版)  
【号外】



**表面** (買いため控え協力願い、停電時の火の取り扱い、計画停電)

**裏面** (ごみ収集日の変更、節水協力願い、市立病院の対応、休日夜間急患センターの診療時間など)

## 被災地派遣職員の体験記

【企画調整課情報政策係 菅原 巧】

本庁舎で救援物資の担当に従事していた私は、被災地の物資不足がニュースで伝えられるたびに「この物資を早く届けてあげたい」と思いながら物資の仕分け作業をしていました。上司から被災地派遣職員の第1陣としての出向を打診されたとき、その思いの強さからか、戸惑いや不安は無く、すぐにでも出発したい気持ちで快諾したのを覚えています。

派遣先は岩手県山田町。出発から約

5時間後に見た被災現場の光景は、町全体が津波にえぐられ、火災で焼き尽

くされた悲惨なものでした。電柱の先端に絡みついた養殖用の浮きや町中に散乱する茶わんなどの生活用品。あ

まりに非現実的な光景と何かが焼け焦げた異臭に言葉を失いました。

従事先は、山田湾から内陸側へ車で20分程度の場所にある、近隣地域の炊き出しの拠点施設になつて

いる避難所。そこで、主に救援物資の荷下ろしと仕分け、被災者への物資配給、炊き出しおにぎりの箱詰めなどに従事しま

した。  
物資を求める被災者は、証明書を持参し、そこに書かれている世帯人数分が配給されます。その裏面には、過去の配給状況が書かれていて「前回はカップ麺でしたので、今回はレトルトおでんにしますね」というような会話ををして配給物資を決めます。業務は19時に終了し、報告書を作成して22時

に終わります。持参したボディーペーパーで体を拭き、事務室の床に段ボールを敷いて寝袋に入り一日が終わります。

ボランティアスタッフの中には被災されたかたもいました。今後に不安を抱えながらも必死に働いている姿には胸が締め付けられる思いでした。最終日に「来てくれて本当にありがとうございます」という言葉をいただき、復興への強い意志を感じるとともに、私も頑張らなければと、逆に勇気をもらいました。



掲載

○4月号2~5ページ

「日頃から災害に備えましょう」

・市が指定している一次・二次避難所の紹介や非常持ち出し袋などの

掲載

○5月号4~5ページ

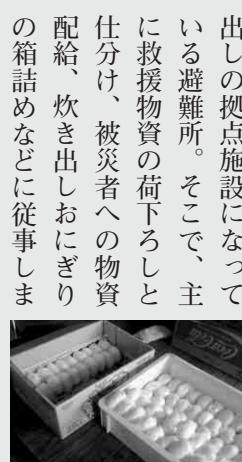
「東日本大震災の対応」

・前月号の内容の最新情報を掲載

○6月号2~5ページ

「緊急情報メールにご登録ください」

・防災情報などの市からの緊急情報を、皆さんのが携帯電話やパソコンに電子メールで配信するサービスの登録方法などを掲載



今回の派遣で特に印象に残ったのは、家族や友達を亡くした子ども達の悲しげな表情でした。子ども達に笑顔を取り戻すため、今後もボランティア活動を続けていきます。